

佐藤淳

そこ [で・に] 生きるための、知のありか。

フィールドワーク・セッション

2016/07/16/Sat
at Matsuda Lab.

「フィールドワーク」とは、何だろう。
このレクチャー・シリーズ（予定）では、諸分野の frontline から（広義の）“フィールドワーカー”をお迎えし、これまでの活動や足跡について語ってもらうと共に、その「フィールド」の見だし方や読み解き方、そしてそのフィールドを通じて捉えられる《世界》についてディスカッションを行う。

#4

Lecture 佐藤淳

14:00-
15:00

フィルターとなる透過性ある構造形態

Session 佐藤淳 松田法子

15:00-
16:30

建築構造と「建築の外」／認識と解析



佐藤淳 (さとう・じゅん)

1970年生まれ。佐藤淳構造設計事務所代表。東京大学工学系研究科准教授。

構造設計を担当した主な作品に、「公立ほこだて未来大学研究棟」（鉄骨造／山本理頭設計工場／2005）、「N house」（RC造、木造／藤本壮介建築設計事務所／2008）。

「ヴェネツィアビエンナーレ2008」（高張力鋼＋ガラス造／石上純也建築設計事務所／2008）、「下関市川棚温泉交流センター」（鉄骨造＋RC造／隈研吾建築都市設計事務所／2010）

ほか多数。著作に『佐藤淳構造設計事務所のアイテム』（INAX出版、2010）。日本構造デザイン賞（2009）など受賞多数。

フィールドワークセッション

そこ [で・に] 生きるための, 知のありがた。

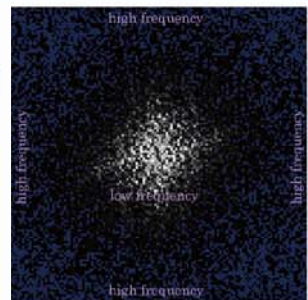
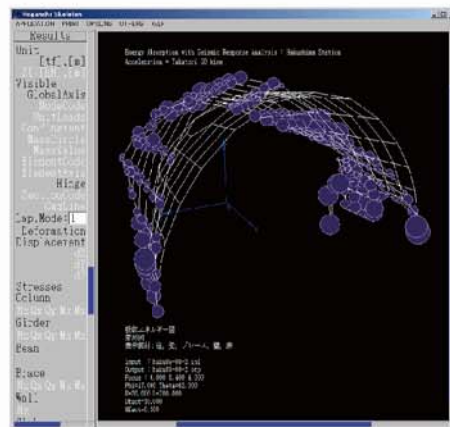


©Jun SATO

2016/07/16/Sat
at Matsuda Lab. 14:00-16:30

透過性を増した構造形態が、環境に対する「フィルター」
としての役割を持ちはじめました。大自然を操作しようと
するのではなく、肩の力を抜いて、そこにある自然を感じ
るフィルターです。

そんな透明/半透明な構造形態を生み出すために、座屈と
塑性を操って「力学形態」を生み出します。描画するのが
困難なぐらい複雑な立体形状を操り「幾何学形態」を生み
出します。



エンジニアリングとは「省略」の技です。すべての現象を知ることはできない中で、確かめたいことすべてを確かめる時間のない
中で、これなら大丈夫と決断しています。座屈を知ること、数値計算のアルゴリズムを構築することも、素粒子を観測することも、
大自然を知ることです。大自然を少しずつ学び、少しずつ多くの人の命を守ることができるよ
うになります。豊かな空間を生み出せるようになります。

細かく薄い素材で構造をつくることができたら、光、熱、音、空気、水、生物を透過させることができます。軽くて柔らかくて、
災害で壊れても人が死なない、そんな構造も実現できるかもしれません。

このセミナーでそんな、力学を操る「形態解析」を試してみたいと思います。自然な景色を分析する「スペクトル解析」を試して
みたいと思います。

佐藤淳